

# RSC-MT8FSファームウェアバージョンアップ

## 4.30Aでの新機能ご紹介 ならびに 注意書き

明京電機株式会社  
1.0版(2025/2作成)

弊社リブーターTIME BOOT [RSC-MT8FS]を平素ご利用いただき、誠にありがとうございます。  
ファームウェアを「4.30A」にバージョンアップ後、使用できる機能をご紹介します。

注意：書換後、ダウングレードを行うことはできません。

### 《大きな追加機能》

- ・従来の「排他制御方式」に加え、「ガードタイム方式」も選択可能に。
- ・WEB画面での電源制御、仮想アウトレット制御(WoL送信)時、確認ポップアップなしに即制御実行可能に。
- ・上記の機能追加に伴い、
  - メール制御、新機能のMPMP制御での電源制御を実行するには「ガードタイム方式」選択必須。
  - ダイレクトWEBコマンドでの電源制御を実行するには「ガードタイム方式」ならびに「電源制御時の動作確認：なし」選択必須。となりました。
- ・電源管理クラウド365に対応しました。  
電源管理クラウド365をご使用になるには、保守パックのご契約が必要となります。
- ・一斉電源制御に改良を加えました。  
親機としてコマンド実行後の結果通知をさらに改良しました。  
「ガードタイム方式」選択時、子機側リブーターのWEB画面操作が可能になりました。
- ・SNMP TRAPの表現修正。  
<https://www.meikyo.co.jp/archive/#mib> から取得できる最新のMIBファイルをご利用ください。
- ・SSHシャットダウン時、WEB画面自動更新間隔延長機能。  
対象機器のOpenSSHが7.7などで、SSHシャットダウン実行に60-70秒かかる場合、その間にWEB画面更新が行われるとWarmStartになるため、画面自動更新をSSHシャットダウン実行中だけ行わせないように時間調整できるようにしました。(OpenSSHのバージョンが8.1以降になっているとシャットダウンは10-15秒で実行できます。)

## 《バージョンアップの際のご注意》

ファームウェア:1.00Eを既にご利用のお客様で

「メール制御」「ダイレクトWEBコマンド」機能をご使用の方へ:

新仕様において

「メール制御」 : 「ガードタイム方式」選択必須

「ダイレクトWEBコマンド」 : 「ガードタイム方式」かつ「制御動作確認:なし」選択必須  
となりました。

★4.30Aにバージョンアップ後、本書の1.と2.の設定を行ってから上記の2機能をご使用  
ください。

## 《変数等の差異》

■先述の機能追加により、以下の変数がListに追加されています。

debOlControlSAEnabled

WEBからの電源操作時、ポップアップでの確認表示有無(デフォルト:0[あり])

debOlControlGTEnabled

電源制御方式(0[デフォルト]:排他制御方式 1:ガードタイム方式)

debOlControlOnGuardTime

[ガードタイム方式時]ON/REBOOT操作後のガードタイム(デフォルト10秒)

debOlControlOffGuardTime

[ガードタイム方式時]OFF操作後のガードタイム(デフォルト10秒)

centerCmdHostID

MPMPによるコマンド制御で使用するID(8箇所設定可能)

centerCmdPassword

MPMPによるコマンド制御で使用するパスワード(8箇所設定可能)

scEnabled

サーバー制御有効化(0[デフォルト]:無効 1:有効)

■従来機能の改良により、以下の変数がListに追加されています。

hbHeartbeatSource

HB監視:電源供給アウトレット(デフォルト:0)

■使用されていない変数のため、以下の変数をListから削除しました。

mailLogoutTime

debOlShutdownSignal

httpCommandNo

■イベントログなどに表示されるエラーコードが追加されています。

エラーコード252

シャットダウンスクリプト実行中にWarm Startが発生して、  
シャットダウンスクリプト実行が失敗した場合。(該当アウトレットは電源ONを維持する)

## 《追加機能説明》

### 1. ガードタイム方式による多重ログイン

電源制御可能なユーザー[Admin権限, Control権限]がWEB, シリアル, Telnet, メールなどでログインしている時には, 他の電源制御可能なユーザーはログインできない「排他制御方式」に加え, ガードタイムを設けることで電源制御可能な複数のユーザーがログインし, 制御を実行可能な「ガードタイム方式」を選択できるようになりました。(方式を切り替える際, 同意を求めるポップアップが表示されます。)

IPアドレスが

RSC-MT8FS : 192.168.1.160

端末A : 192.168.1.10

端末B : 192.168.1.25 となっているとします。

#### ●従来の「排他制御方式」

下の画面のように, 端末AからRSC-MT8FSのWEB画面にAdmin権限でアクセスしているとします。

The screenshot shows a web browser window with the URL 192.168.1.160/i... The page title is '簡易状態表示' (Simple Status Display). The left sidebar contains various navigation buttons: TIMEBOOT, RSC-MT8FS, 状態表示, 簡易状態表示, 詳細状態表示, イベントログ, 制御, 電源制御, 機器設定, システム設定, ネットワーク設定, 監視設定, スケジュール, システム情報, 簡易説明, CPUリセット, admin, 192.168.1.10, admin, and ログアウト.

The main content area is divided into several sections:

- 機器情報** (Device Information):

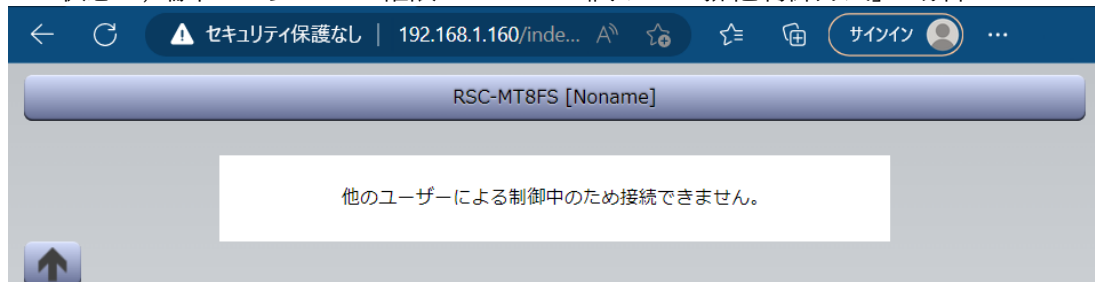
機器名称	Noname
設置場所	Nowhere
- アウトレット状態** (Outlet Status):

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			ON
2	Outlet2			ON
3	Outlet3			ON
4	Outlet4			ON
5	Outlet5			ON
6	Outlet6			ON
7	Outlet7			ON
8	Outlet8			ON
- 接点情報** (Contact Information):

接点出力連動設定		連動無し	
No.	接点出力名称	連動	接点
1	NV Output1		OFF

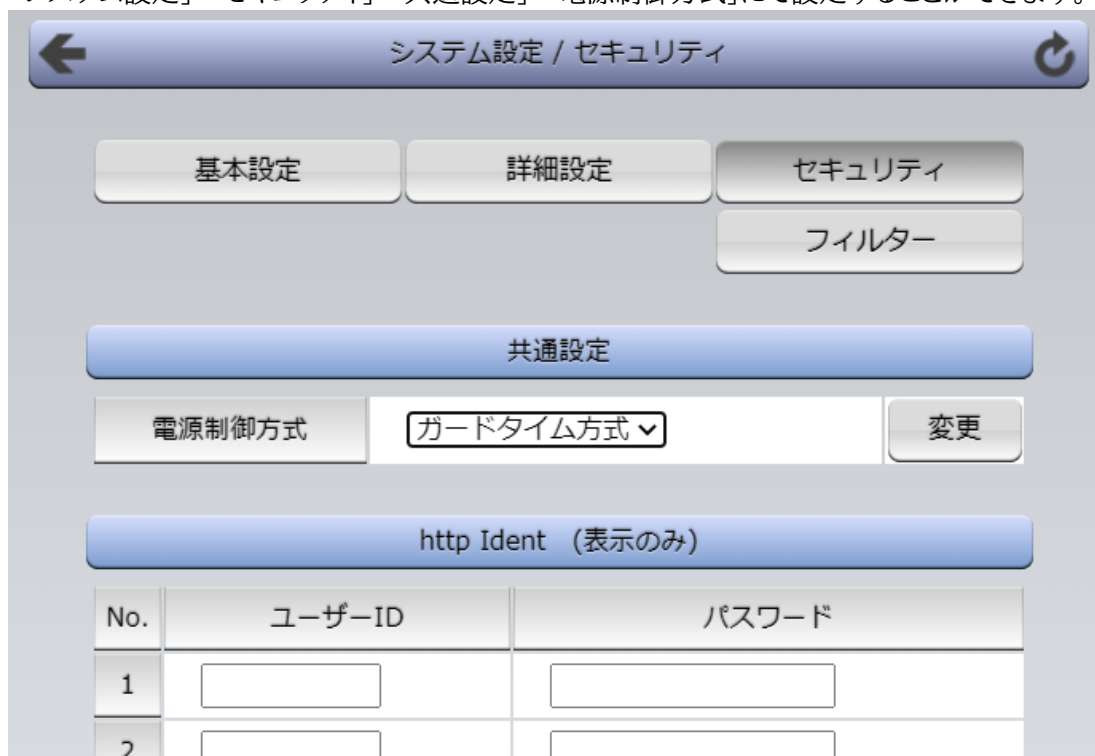
No.	接点入力名称	接点
-----	--------	----

この状態で、端末BからAdmin権限でログインを試みると「排他制御方式」の場合はログインできません。

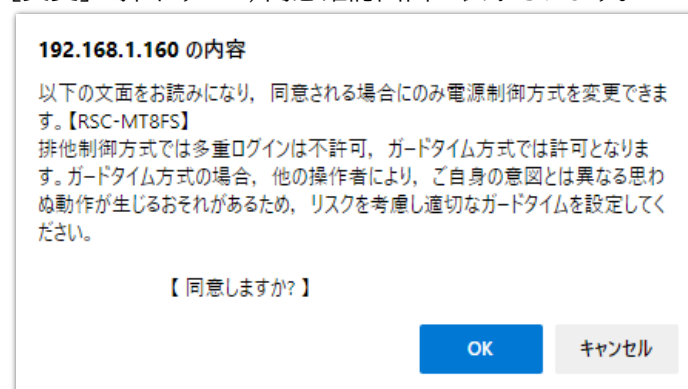


## ●新機能「ガードタイム方式」

「システム設定」-「セキュリティ」-「共通設定」-「電源制御方式」にて設定することができます。



[変更]を押下すると、同意確認画面が表示されます。



システム設定 / セキュリティ

基本設定 詳細設定 セキュリティ  
フィルター

CPUリセットを実行して、設定に変更を適用する必要があります。

共通設定

電源制御方式 ガードタイム方式 変更

ON/REBOOT後, ガードタイム(秒) 10

OFF後, ガードタイム(秒) 10

[ON/REBOOT後, ガードタイム][OFF後, ガードタイム]を設定できます。

●CPUリセットが要求されるので、左サイドバーにて[CPUリセット]を押下します。

「ガードタイム方式」であれば、端末A、端末B両方からRSC-MT8FSに多重ログインすることが可能になります。

← 簡単状態表示

機器情報

機器名称 Noname  
設置場所 Nowhere

アウトレット

No.	名称
1	Outlet1
2	Outlet2
3	Outlet3
4	Outlet4
5	Outlet5
6	Outlet6
7	Outlet7
8	Outlet8

接続情報

接続出力運動設定

No.	接続出力名称
1	NV Output1

TIMEBOOT RSC-MT8FS

状態表示  
簡単状態表示  
詳細状態表示  
イベントログ  
制御  
電源制御  
機器設定  
システム設定  
ネットワーク設定  
監視設定  
スケジュール  
システム情報  
簡単説明  
CPUリセット

admin 192.168.1.10 admin  
ログアウト

← 簡単状態表示

機器情報

機器名称 Noname  
設置場所 Nowhere

アウトレット状態

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			ON
2	Outlet2			ON
3	Outlet3			ON
4	Outlet4			ON
5	Outlet5			ON
6	Outlet6			ON
7	Outlet7			ON
8	Outlet8			ON

接続情報

接続出力運動設定 運動無し

No.	接続出力名称	運動	接続
1	NV Output1		OFF

## 2. 制御確認 2段階／即時実行の切替

電源制御、仮想アウトレット制御(WoL送信)において、デフォルトでは制御ボタンを押下後「制御動作確認」のポップアップが表示され、[OK]ボタンを押下することで制御が実行されます。(ダブルアクションによる、操作者の意図確認)

4.00Aのファームウェアでは「制御動作確認」のポップアップを表示させないように設定できるようになりました。

### ●従来の動作確認「あり」方式

電源制御、仮想アウトレット制御(WoL送信)で制御ボタンを押下すると、下図のように動作確認のポップアップが表示され、[OK]押下後に制御が実行されます。

The screenshot shows the RSC-MT8FS Web Console interface. A confirmation dialog box is displayed in the center, asking for confirmation to power off all outlets. The dialog box has two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel).

The background interface includes a sidebar with various control buttons and a main content area with sections for device information and outlet status.

**192.168.1.160 の内容**  
全アウトレットにPower OFFを行いますか?

**機器情報**

項目	値
機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

**アウトレット情報**

No.	名称	制御	電源状態
1	Outlet1	ON OFF Reboot	ON
2	Outlet2	ON OFF Reboot	ON
3	Outlet3	ON OFF Reboot	ON
4	Outlet4	ON OFF Reboot	ON
5	Outlet5	ON OFF Reboot	ON
6	Outlet6	ON OFF Reboot	ON
7	Outlet7	ON OFF Reboot	ON
8	Outlet8	ON OFF Reboot	ON

## ●動作確認「なし」方式

「システム設定」-「基本設定」-「アウトレット設定」-「電源制御時の動作確認」で設定します。

(デフォルト値:「あり」)

この項目で「なし」を選択し、画面下部の[適用]を押下します。

TIMEBOOT  
RSC-MT8FS

状態表示

簡易状態表示

詳細状態表示

イベントログ

制御

電源制御

機器設定

システム設定

ネットワーク設定

監視設定

スケジュール

システム情報

簡易説明

CPUリセット

admin  
192.168.1.10  
admin

ログアウト

明京電機株式会社

←システム設定 / 基本設定

基本設定

詳細設定

セキュリティ

基本設定

接点入力設定

接点出力設定

時刻設定

※特殊記号は利用不可

機器情報

機器名称

Noname

設置場所

Nowhere

アウトレット設定

No.	アウトレット名称	OFF	REBOOT	ON	START
1	Outlet1	0	10	1	1
2	Outlet2	0	10	2	2
3	Outlet3	0	10	3	3
4	Outlet4	0	10	4	4
5	Outlet5	0	10	5	5
6	Outlet6	0	10	6	6
7	Outlet7	0	10	7	7
8	Outlet8	0	10	8	8

全アウトレットREBOOT時間 (秒)

10

電源制御時の動作確認

あり ▼

OFFを「-1」にするとOFF操作を使用不可にします。  
ONを「-1」にすると全アウトレットON時に電源出力しません。  
STARTを「-1」にすると自動で電源出力を開始しません。

これにより、電源制御、仮想アウトレット制御(WoL送信)で制御ボタンを押下後、即時、その制御が実行されるようになります。

## ●メール、ダイレクトWEBコマンド、MPMPでの電源制御について

4.00Aのファームウェアから、

・メールによる電源制御

「ガードタイム方式」選択必須

・ダイレクトWEBコマンドによる電源制御

「ガードタイム方式」かつ「制御動作確認:なし」選択必須

・MPMPでの電源制御

「ガードタイム方式」選択必須

となっています。

上記の方式を選択せずに実行すると

「511 Command failed. Select the appropriate mode.」

というエラーコードが表示され、電源制御は実行されません。



### 3. 一斉電源制御

一斉電源制御の結果通知をさらに改良しました。

#### ●親機として使用する場合

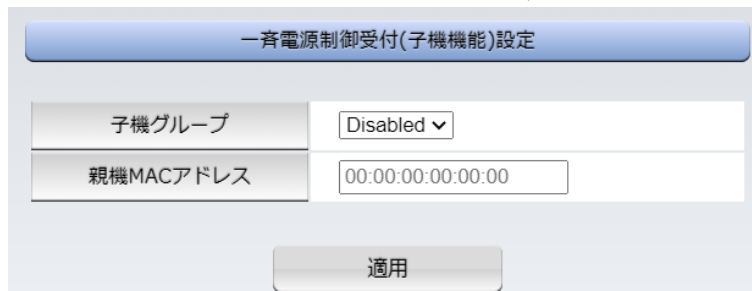
WEB画面の「電源制御」→「一斉制御」から、グループ指定・実行コマンドを指定して「送信」クリック後、3秒待機ののちに、子機応答結果を表示するようになりました。

#### ●子機として使用する場合の設定（「ガートタイム方式」選択時）

「ガートタイム方式」選択時のみ、メンテナンスモードに切り替えずにWEB画面にて設定を行うことが可能になりました。（FW:1.20Aでは、メンテナンスモードでのみ設定可能な項目でした。）

「ネットワーク設定」-「詳細設定」をクリックします。

一斉電源制御受付(子機機能)設定メニューで、以下の項目を設定できます。



子機グループ : Disabled Group1～8  
デフォルト Disabled

親機MACアドレス : 一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを入力します。  
適用をクリックし、CPUリセットを行います。

（これまでどおり、メンテナンスモードでこれらの項目を設定することもできます。）

#### ●Telnet, シリアルでの制御と応答

Telnet, シリアルでも一斉電源制御を親機として実行できるようになりました。使用するコマンドは以下です。

（x=1～8, xはグループ番号を示します）

BPONx :	該当グループ全アウトレットの電源出力開始
BPOFx :	該当グループ全アウトレットの電源出力停止
BPORx :	該当グループ全アウトレットのリブート(電源リブート)

実行の後は、親機のコマンド実行結果応答に加えて、子機の応答結果が表示されます。

## 4. SSHシャットダウン実行時、WEB画面自動更新間隔延長機能

(対象機器のOpenSSHのバージョンが7.7などで)SSHシャットダウンに60-70秒かかる場合、そのシャットダウン実行中にWEB画面の更新がかかるとWarmStartしてしまう事象が見られています。その対策として、SSHシャットダウン時のみ、通常の自動画面更新間隔に時間を追加する仕様を加えました。(対象機器のOpenSSHバージョンが8.1以降であれば、シャットダウンは10-15秒で行えるため、この事象は発生しにくくなっています。)

[電源制御]画面には「注意文」が増えています。

The screenshot shows the '電源制御 / アウトレット' (Power Control / Outlet) page. The sidebar on the left contains buttons for 'TIMEBOOT', 'RSC-MT8FS', '状態表示', '簡易状態表示', '詳細状態表示', 'イベントログ', '制御', '電源制御' (highlighted with a red circle), '機器設定', 'システム設定', 'ネットワーク設定', '監視設定', 'スケジュール', 'システム情報', '簡易説明', 'CPUリセット', 'admin', '192.168.1.10', 'admin', and 'ログアウト'. The main content area has a title bar '電源制御 / アウトレット' and a refresh icon. Below the title bar are buttons for '電源制御', '仮想制御', '一斉制御', and '接続制御'. There are sections for '機器情報' (Machine Information) with fields for '機器名称' (Noname) and '設置場所' (Nowhere), and 'アウトレット情報' (Outlet Information) which is a table. The table has columns for 'No.', '名称', '制御' (ON, OFF, Reboot), and '電源状態' (ON). All outlets are currently ON. At the bottom, there is a red-bordered box containing a warning message.

No.	名称	制御	電源状態
1	Outlet1	ON OFF Reboot	ON
2	Outlet2	ON OFF Reboot	ON
3	Outlet3	ON OFF Reboot	ON
4	Outlet4	ON OFF Reboot	ON
5	Outlet5	ON OFF Reboot	ON
6	Outlet6	ON OFF Reboot	ON
7	Outlet7	ON OFF Reboot	ON
8	Outlet8	ON OFF Reboot	ON
	All Outlets	ON OFF Reboot	

**注意！**  
SSHでのシャットダウンスクリプトを設定している場合、対象のOFFボタンをクリックして、OFFを実行した後は、処理が完了し、自動更新により電源状態が反映されるまでWEB画面の操作を何も行わないようにしてください。

[システム設定]-[詳細設定]-[シャットダウン設定]-[スクリプト編集]画面の最下部に、「SSHでのシャットダウン限定適用項目」と「WEB自動ページ更新 追加延長時間(秒)」の設定欄が追加されています。

TIMEBOOT RSC-MT8FS

← システム設定 / 詳細設定 / シャットダウン / スクリプト編集

基本設定 詳細設定 セキュリティ

シャットダウン設定

スクリプト編集

スクリプト ファイル

スクリプト番号 No.1

エラー情報

```
TELNET
timeout 600
1:
recv 30 exit 91
unless "login:" goto 1
sendname
2:
recv 30 exit 92
unless "password:" goto 2
sendpassword
3:
recv
unless ">" goto 3
send "shutdown /usr"
4:
recv
unless ">" goto 4
send "exit"
exit
```

スクリプト説明

スクリプト ファイル設定

	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load
1	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load
2	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load
3	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load
4	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load
5	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load
6	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load
7	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load
8	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load

スクリプトエラー時の終了コードによる電源OFF

右の数値以下の終了コードで電源OFFする 255

SSHでのシャットダウン限定適用項目

WEB自動ページ更新 追加延長時間(秒) 60

SSHでのシャットダウンスクリプト実行中のみ、  
[ネットワーク設定]-[html表示設定]-[自動ページ更新時間(秒)]の設定秒数に、  
上記の秒数を追加してWEBページ自動更新を行います。  
SSHでのシャットダウン処理中、自動更新が生じないように  
十分な時間を設定してください。

適用

デフォルト値では、

通常の「自動ページ更新間隔(秒)」:30秒 「WEB自動ページ更新 追加延長時間(秒)」:60秒 のため、  
SSHシャットダウン中には、「電源制御」画面の更新が90秒後に実行されることになります。

SSHシャットダウンにかかる時間は、対象となるSSHサーバーの設定(OSや鍵交換方式など)によって異なります。【通常の「自動ページ更新間隔(秒)」+「WEB自動ページ更新 追加延長時間(秒)」】の合計秒数が、  
SSHシャットダウンにかかる時間よりも多くなるように設定してください。

以上